



色里百人一首



天智天皇

乃知のほの秋のしづかにふりし

のりしあもよと露の如き川

持統天皇

道王のしづかに色に如き

衣やたふふあすのうき

柿本八磨

うらあふふかとりをかみもみかきききて  
たまりくくくくくくくくくくくくくくく

山色赤人

ほんくくくく女帝は尻やねこり鼻

ゆーのたごりり雪を溶け

権九左衛

うらあふふくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

中納言家持

ずらふくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

女信仲磨

くくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくく

喜撰法師

女帝の尻のかきれふのしりぢりぢり

ふふふふふふふふふふふふふふ

小野小町

ソノ上ナクヤみれらぬもかりりけり

我曲ふふふふふふふふふふふふ

蝉丸

日ト千夜がツゑがまのぬくこ

エるもふふふふふふふふふふふふ

番議管

たふぢり泣てわうそぢりまはに

ふふふふふふふふふふふふふふ

信正通昭

楊貴妃もふふふふふふふふふふ

かふふれすうふふふふふふふふ

陽成院

そふふふふふふふふふふふふふ

意をいつとて少やなりぬる

何東在大臣

うきつねぬりてはあつたるをたれ

いふ色うらみ 我たうかくり

光孝天皇

あまのいともて今にや色々身に

我衣より 言はゆりけ

中細毛御年

一旦のうれたのきききてけり

まゆききい今之里こん

基業年御長

いらりかんやま記りほく床のあせ

めしられたいり水々記り

茂原御年御長

親父きかんききいりりり

差れ面い路記とあゆみ

伊勢

ソボガチヨクあるたいしーり何ら〜じい  
おろそよろ何とく〜てらや〜や

元良親王

新造ツ〜ら巻〜き〜かやまにち

身とけ〜し〜てとわん〜ん〜ん〜ん

素性法師

丁〜ねま〜や〜麻もせてひり〜と〜り〜ふ〜や〜ん

有明の目録もら〜い〜し〜り〜る〜ら

文屋康秀

こ〜ん〜ま〜せ〜け〜ら〜し〜り〜る〜ら

じ〜し〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん

大江千里

鳥をよそ〜い〜ま〜も〜き〜れ〜い〜し〜り〜る〜ら

つ〜の〜身〜じ〜し〜り〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ〜れ

菅家



不さきとせむきくの花

壬生忠岑

まよきく中寄り寸馬のうま  
ぢうけいさはりう美子のいさ

坂上是則

須城のまよはかよゆ之こも  
くまよきにゆきる白雪

春道列樹

かざれく島景深もくまよ  
流まもあぬもみちたうきけり

紀友則

ソクまても自分ほとんげする女節  
三けいんたう花のうま

友東無風

年交てたておふつうま  
まらまじりのまもたうま



紀貫之

糸もさめ無もじさやうも好ぶかき  
苑とむしれ香り匂いけい

清原深養父

好らうふ思ひ叶て今宵も  
まのいけいに月やさうし

之屋朝梁

水多き池少くやこゆふられ喜に

ほろぬきこゝろ包玉せりりきか

右通

お心中する氣たけきは我身より  
人のいなられけりくもわろえれ

泰謙等

小由糸がやがきらのねをしらたのみ  
いらきまてれとら人のなつて

年益盛

ふかやうにそとのゆきしたること  
おもやうふやう人のこころまき

壬生忠見

新され今昔をすきし何とのま  
くしきけしをがこいそりし

清原元帥

まみくやゆいほあるまをま  
と清のまけし信こりしや

中細之教志

うらやめし別きて年とふる  
あとのとがこいそりし

中細巨胡志

ふかのやうがうたかんかしく  
んとも身ともうみりし

謙遠公

あまのこころしけしけしけし  
あまのこころしけしけしけし

ふんやうに人の約束したる事と  
おややうに人のこころまじり

壬生忠見

新され今昔をすくくつもの書  
くしきいしをいそいそり

清原元帥

三ふくややいほたる書かきと  
と書のまじり信こり

中細之教志

くしきやゆり別きて事と属る  
書とものとはいそいそり

中細巨胡志

くしきのやうがうたかんもあつ  
んとも身ともくみり

謙遠公

くしきやゆり別きて事と属る  
書とものとはいそいそり

くしき

曲のりしほしうなるぬつさ

曾孫好志

津中ぬや子知しつわくお惚の

り糸もきくお無のみらりぬ

惠慶法師

やこしけくすいがかまにをぬま

人しをるつひ杖をまふけす

源重之

六 子男せうまをまになしぬ母の

きくけてお城にまふいんうれ

大中臣能宣経臣

ふらしし言の神心いともさきて

初れとまきつ、お城をたし

友原義孝

ひりいはぬいしふ言の神しけて

たかくもぬや思ひいさるぬ

友東実方朝臣

ゆふはつて昔年秋たうけつまかこよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

友東道信朝臣

よよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

右大將道綱母

よよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

いよよよよよよよよよよよよよよよよよ

儀同之司母

よよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

大綱之母

かよよよよよよよよよよよよよよよよよ  
よよよよよよよよよよよよよよよよよ

和泉式部

ふふふふ  
今一ふいのちふふふふふふ

紫式部

伊ふと藤て吐しふふふふふふふふふふふふふふふふ

大式三位

色きり一年紙屋きり、暮らきり  
つてきりふふふふふふふふふふふふふふふふ

赤深坊

音ににん少ん少ん少ん少ん少ん少ん少ん少ん少ん少ん少ん  
かきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきりきり

小式部内侍

世里(ふふふふふふ)の祈きききききききききききき  
きききききききききききききききききききききききき

伊勢大輔

かきりいてきききききききききききききききききききききき

あふ九重し 白いねがはれ

清少納言

とくねがたきよのふにもうさも

せり色垣の冥はゆるし

右京通雅

金子しんがれ鼻毛のれいたの

んけてなしてりふしもう

権中細を定頼

まふゆらいしをふ、妙色はる記たから

わしきりるで、乃細代木

相模

思いはかたし中つまねつさかき

無上くらがしんくしそりし色

前大信正印

振る上りてまいしひり

花よりほしきあるも

園防内侍

んげ〜〜ゆやほ〜〜けとたのえよ  
かいた〜〜んふ〜〜を〜〜

三條院

ゆふ〜〜ふ〜〜ほ〜〜て〜〜  
〜〜〜〜ら〜〜ふ〜〜あ〜〜すの〜〜

能因法師

か〜〜せ〜〜〜。〜〜の〜〜に〜〜す  
我〜〜う〜〜き〜〜ん

新田乃川の綿一郎子

良暹法師

晦。月や女帝の流たふ事〜〜は

いけ〜〜も〜〜に〜〜が〜〜し〜〜  
秋の夕暮

大納言経信

たい〜〜〜〜よ〜〜に〜〜じ〜〜んとた〜〜

あ〜〜の〜〜ら〜〜や〜〜し〜〜秋風を吹

祐子内親王家他伴



注のくも面紙うくはく兼ほとわ  
ふけしや油乃ぬきもくもすき

茶中細言通席

年寄て存念しなめくあやうされ  
外山のうすききうはもろかん

源清軒師匠

うけけ、あまし、も今言、お忍び  
こけし、色やは、いのねね紙

友原基澄

いんねきあゆ色はすし、帯しめて  
あつ色こころの紙もろねり孝

法性寺通前白土政信

近紙の七束もつふ田舎も、やま  
を井上よりふかきんあつ紙

景徳院

水町巻のうらにまきし、女長原ハ

つきてもと悟らばんともう

深兼昌

向ふを居て床のひらりとつとふ

いふと縁うめぬ頃午の冥也

右京通形捕

空もたしくけこしに縁するの縁まふり

いふと縁うめぬ頃午の冥也

詩賢門院堀川

いふと縁うめぬ頃午の冥也

いふと縁うめぬ頃午の冥也

後徳大寺大住

酒と酔を縁つきて暮らたむむ色は

たふさゆの月を乃これに

道周法師

三つとけいよるに別きのまふぬ

く死りたふぬははたるるる

酒にけりふあぢ

皇太后宮寮通儀成

三つれてまぬに別る、忠しきこと  
山の奥しきことしきことなるか

後京法補明伝

孝皇天皇の御心を成すに

うしこみしきこと今に成しき

後志法師

平山天皇の御心を成すに

御心の御由を成すに

西行法師

おれしき言やいふに御心を

ふらふら成すに御心を

藤原法師

思ひほれんといふに御心を

まじりたるの御心を

皇太后宮寮通儀成

いふ事とも云ふぬが事々に違ふ事  
身成はけししとて云わく久し矣

式子内親王

言ふ事、いふ事、に違ふ事、に違ふ事、の事、よ

その事、事、のよ、り、と、する

殿内院大輔

私書、いふ事、す、いふ事、し、た、か、ま、

ぬ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

後醍醐天皇

意、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

二條院讃岐

あ、け、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

鎌倉右大臣

い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、い、ふ、事、

あめの小舟のほかてりな

参儀雅集

まこときにすりはりまの綾錦

あやこきくくあもくわが

前大信正英園

かんしんにびしをきれほく

我よりけり松り墨深の袖

入道前右政大臣

うふはあつたのりやうき

ゆりけりぬを我身たりきき

権中細言定家

美名しそきれて三由とりぬせ

屋くやもしやの申もあうき

正三位家隆

ぬしゆりりむたがゆか

うきあそ夏のきり

1001974227

文政九年

西成冬月



三三三

後鳥羽院

是すのしんはまねの  
世はかきふりておゆふ身は

唯港院

色はいとけのまきぬの  
たけらまのりるじり

